



# わかる授業への工夫—個別の指導計画を中心として— 和歌山ろう学校中学部

## 報告内容

1. 中学部の教育
2. 個別の指導計画の活用
3. 情報の共有化を通して—中学部で大切にしていること—
4. 個別の指導計画・記録の役割
5. 今後の課題



# 1. 中学部の教育

## (1) 目標

・基礎学力の向上、言語力の充実を図り、自らの生活を豊かにする力を伸ばすとともに自立活動を通して自立への意欲・態度を育てる。

## (2) 教育課程

	1年	2年	3年	重複
国語	175	175	175	175
社会	105	140	140	70~105
数学	140	140	140	140~175
理科	140	105	105	70~140
音楽	35	35	35	35~70
美術	35	35	35	35~70
保健体育	105	105	105	70~105
技術家庭	70	70	70	70~140
英語	140	140	140	0~70
道徳	35	35	35	35
自立活動	35	35	35	70~140
特別活動	35	35	35	35
総合的な学習の時間	35	35	35	35
総授業時数	1,085	1,085	1,085	1,085



### (3) 教科外活動

① 生徒会活動:

執行部、体育・整美委員会、文化・図書委員会

② 部活動:

卓球、陸上

③ 行事:

修学旅行(2泊3日)、キャンプ(1泊2日)、  
春の校外学習、秋の校外学習、和ろう祭、体育祭、  
マラソン大会、西和中学校との交流、私の主張、等

④ 資格取得:

英語検定、漢字検定



## (4) 中学部の生徒の様子と課題

- ①心身ともに成長の著しい時期  
→「児童」から「生徒」へ
- ②自主的な態度の必要性  
→「指示待ち」から「自己管理・自己決定」へ
- ③自分について考え始める時期  
→幅広い情報活用・自己肯定感の促進

※以上のことに配慮しながら指導の手だて等を検討する必要がある。

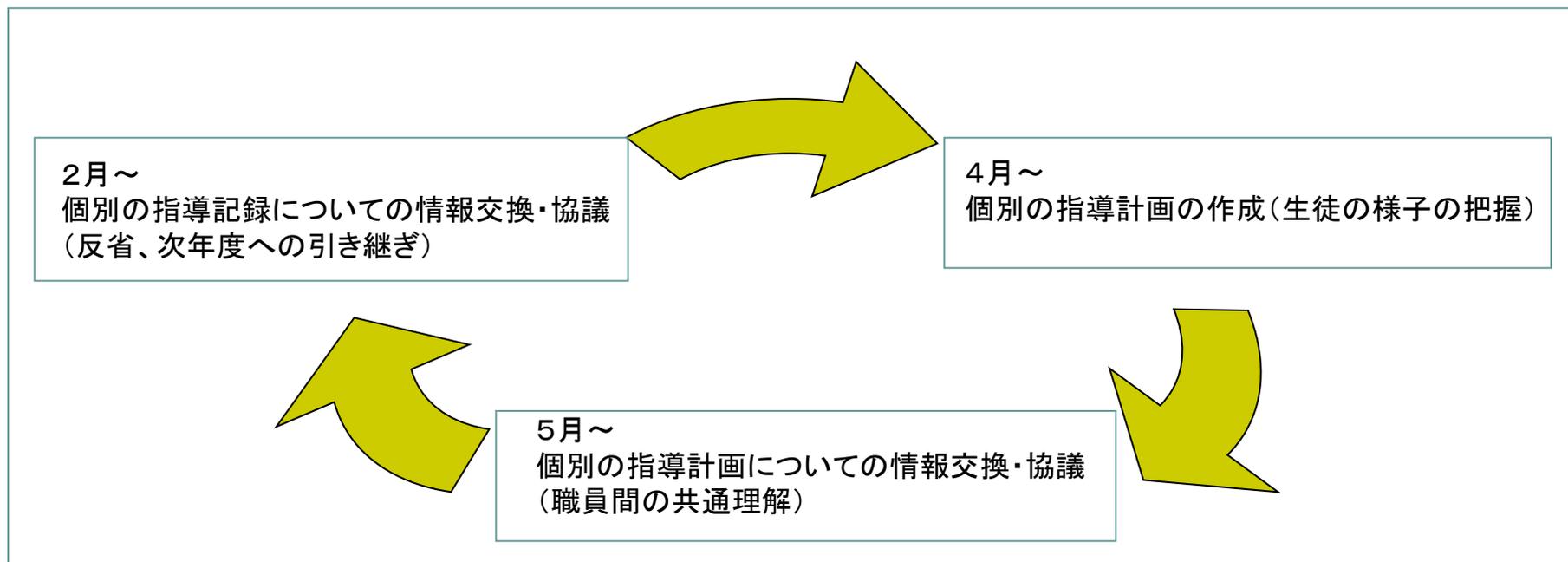


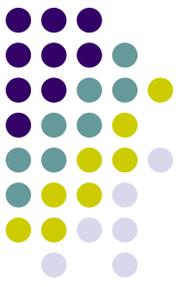
## 2 個別の指導計画の活用

### (1) 目的

- ①生徒一人ひとりの課題を中学部全体で把握し、教科間の連携を図る。
- ②情報を共有することで指導の一貫性や統一性を図り、継続的な指導をする。

### (2) 個別の指導計画の作成





### 3 情報の共有化を通して—中学部で大切にしていること—

#### (1) 個に応じた支援

##### ① 子供のニーズに合わせる

例1: 生徒に応じたコミュニケーションの方法を選択する。

例2: 視線の高さを生徒に合わせて等、親しみやすい雰囲気を作る。

→ どのような場面で、どういう理由で、どのような配慮をしているのか、情報交換をすることで、指導に対する理解を深める。

##### ② 集団場面における指導のあり方

例1: 話し合い活動の場面で、生徒自身が、積極的に自分の考えをまとめたり、発表したりできるよう、支援する。

→ 自主的な態度を育てるために、集団場面で、個別的な配慮が必要な生徒について、学部全体で確認する。



## (2) 自ら学び考える力をつけるために

### ①話の内容を伝えるための配慮

例1:手話を見ながら、話の内容を確認できるよう、要点をまとめた掲示物を利用する。

→視覚的な理解を支援するための環境を整える。

例2:平和学習で、フィールドワークを行う。

→体験や実物を利用し、導入や展開を工夫する。

例3:見通しを持って行動できるよう、時間割をカード式にする。

→日常生活の中での視覚情報を充実することで、生徒自身で考え、判断するための資料にする。

### ②見やすい状況の設定

例1:集団活動で、発表する時はみんなの見える位置へ移動してから意見を言う意識を育てる。

→意図的に見える状況をつくり、はっきり伝える。

例2:体育等、屋外で活動するときにはまぶしくない位置で活動する。

→手話等が、見やすくなるような日陰を考える。

例3:教室での座席配置を工夫する。

→どの角度からでも、手話等が確認できるようにする。

例4:ビデオを利用してダンスの学習をする。

→動き方を視覚的に提示することで、動作の模倣ができ、理解しやすくなる。



### (3)教科指導の工夫

#### ①興味・関心を高める。

例1:教科書の漢字の読み仮名を宿題にし、正しい読みを授業の前に確認することで、授業中は教科書の内容に集中して学習できる。

→教材の工夫、導入の工夫、展開の工夫等を行う。

#### ②生徒の視線や思考が“途切れない”ような情報の提示

例1:口元と板書との距離、話すスピード等を工夫する。

→見ること、聞くこと、書くこと等の作業に着目して、授業を構成する。

#### ③視覚的な情報の活用

例1:英語の疑問文のイントネーションを右上がりの矢印で表現する。

→カード・プリントの活用、各種提示資料の活用等を行う。

例2:小・中学部で同じ辞書を用い、英語の発音のカタカナ表記を統一する。

→学部間の連携を図る。



## (4) 各教科での取り組み

### ①国語

- i) 言葉の意味や使い方の確認
- ii) 教科書等の拡大コピーの活用
- iii) 画像を用いた視覚化 等

### ②数学

- i) 問題演習により定着を図る
- ii) 生活との関連を重視した導入 等

### ③社会

- i) 新聞の利用
- ii) 行事や校外学習で学んだ知識や経験の活用 等

### ④理科

- i) 実験や観察を多く行う
- ii) 導入は身近なところから 等

### ⑤英語

- i) ALTとの授業の実施
- ii) 英単語のミニテストの実施 等



## 4 個別の指導計画・記録の役割

- (1) 一人ひとりの状態に応じた細かな指導が行える。
- (2) 目標や指導内容・生徒の様子について情報を活用できる。
- (3) 個別的な指導だけでなく、集団の中での個別的な配慮についても検討できる。
- (4) 指導を定期的に評価することにより、より適切な指導への改善につながる。
- (5) 引き継ぎの資料となり、一貫性のある指導ができる。

## 5 今後の課題

- (1) 授業研究
- (2) 効果的なケース会議の実施